

# 第3回 IUMRS 先端材料国際会議における 塑性加工に関するシンポジウム

千葉工業大学

教授 小林 勝

(平成4年度国際会議等開催準備助成 AF-92040)

1. 開催日時：平成5年8月31日～9月1日

2. 開催場所：東京池袋サンシャインシティ

### 3. 国際会議報告：

本シンポジウムは第3回 IUMRS 先端材料国際会議において、塑性加工に関する技術を主題とする唯一のシンポジウムであり、塑性加工技術のフロンティアを切り開く性格を持っている。本国際会議は通常の国際会議と異なり、シンポジウム運営はそのチェアに大きな権限が委ねられ、各シンポジウムが単独の国際会議であり、各シンポジウムチェアが企画立案運営を行った。会議には国内外から金属、セラミックス、複合材料、基礎科学、塑性加工技術と多岐に渡る専門家が集まり、特に国外における最先端の研究が発表され、参加者の注目を集めた。従って外国人招待講演への謝礼や会議費などに助成金を充当することによって成立した本シンポジウムは、その討議を通して将来の塑性加工技術の先端材料への適用に対して多大の貢献をしたものと

信じられる。

本シンポジウムの目的は、最近世界各国で積極的に技術開発が行われている先端材料の超塑性現象について、塑性加工、金属、セラミックス、複合材料等の個別学会に分散している研究者を一堂に集め、最先端の研究結果の発表と研究者相互の交流を通じて、産業技術的に萌芽期にあるこの技術分野の育成のための基盤を築くことにあった。発表件数は32件と小規模であったが、B. Baudelet, I. - W. Chen 両教授等の招待講演者をはじめ約40%が海外からの発表であり、現在世界で活躍しているこの分野のキーパーソンの殆どがそろった。このため100名を越す聴講者が集まり、活発な討論が行われた。またこの分野の発展の方向に関する問題提起と指針の探索がシンポジウム参加者の共通合意となり、近い将来に、より包括的なシンポジウムを組織する必要性が認識された。そのような意味で天田金属加工機械技術振興財団の支援をいただいた本シンポジウムは所期の成果を得て、成功したといえる。